



# NEWS RELEASE

おいしいをデザインする  
森永乳業株式会社

〒108-8384 東京都港区芝5-33-1

2010年7月

## 今年で満35年 無料の育児相談窓口「森永乳業 エンゼル110番」から 「2009年 年間統計」について

森永乳業株式会社(港区芝 5-33-1、社長:古川紘一)は、「子育て奮闘中のお母さんたちのために何かお役に立てることは…」と考え、1975年5月に無料の育児相談窓口「エンゼル110番」を開設しました。

相談件数は83万件(2009年12月時点)にのぼり、このたび、2009年12月までのエンゼル110番への相談利用状況をグラフにまとめました。

### 2009年のデータピックス

- ◆相談対象の子どもの月齢(グラフ④)を見ると、新生児と1ヵ月が大きく伸びている。エンゼル110番が開設以来33年間、0~3ヵ月までの低月齢の赤ちゃんが33%前後を占めていたが、2009年は出産直後に母親の目に触れる媒体を作成したため、43.1%まで拡がった。
- ◆ここ5年間の相談内容割合の移り変わり(グラフ⑥)を見ると、2009年は前年と比べ「身体」の相談が3.4ポイント増加した。これは、低月齢の赤ちゃんに関する相談が増えたことで、「便」「皮膚」「耳鼻咽喉」「新生児の生理」など、低月齢の赤ちゃん特有の項目が増加したためと思われる。
- ◆食生活に関する相談(グラフ⑤)では、食生活全体の件数が前年比129.8%だったのに対し、母乳推進の流れを受けて「母乳相談」は前年比148.6%と目立って増加した。
- ◆出産のお祝いに渡している森永乳業の印刷物にエンゼル110番の電話番号を掲載したところ、受信総件数が前年比132.0%と大きく増加した。

\* 詳細は次ページのグラフをご覧ください。

### エンゼル110番への相談

東京 Tel03-3405-0110

大阪 Tel06-6365-0110

相談時間:月曜日から土曜日まで(祝日・年始年末を除く)午前10時~午後2時

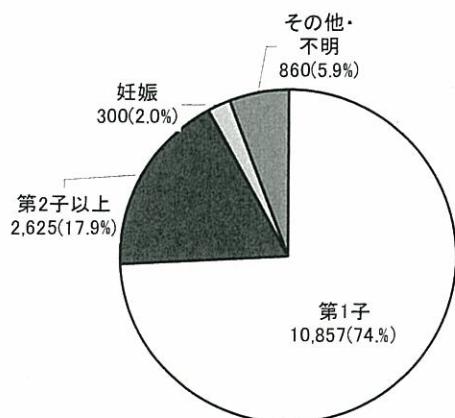
ホームページ:<http://www.angel110.jp/>

## 統計資料)「森永乳業エンゼル110番」の利用状況(2009年1月～12月年間統計)

- 開設からの累積相談件数(1975年5月から2009年12月) 836,123件
- 1年の相談件数 14,642件 (前年比132.04%)
- 1ヶ月の平均相談件数 約1,220件
- 1日の平均相談件数 約50.3件
- 新規・再相談割合 新規相談 8,548件 (58.4%) 再相談6,094件 (41.6%)

\*厚生労働省人口動態統計によると、2009年の出生数は2008年より、22,000人減って推計106万9000人の見通し。  
子どもの数は減ったが、相談件数は前年比132.0%と増加した。

### ①子どもの属性別相談割合



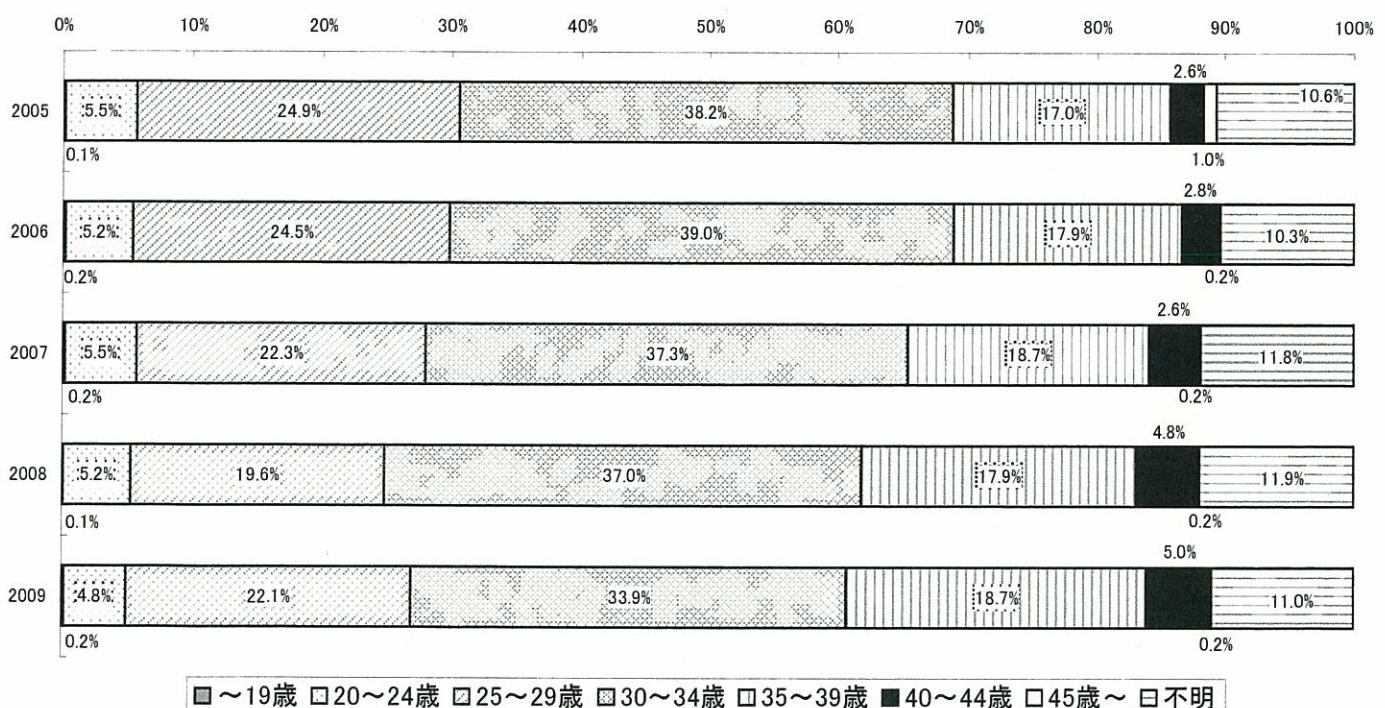
### ②相談者の属性

	件 数 (件)	割 合 (%)
母 親	13,839	94.5
父 親	168	1.1
祖父母	230	1.6
その他の	408	2.8
合 計	14,645	100.0

\*1回の相談で、父親と母親が途中で交替する  
ケースあり。

\*父親が2008年の2倍の件数に。割合が0.4ポイント  
増加。

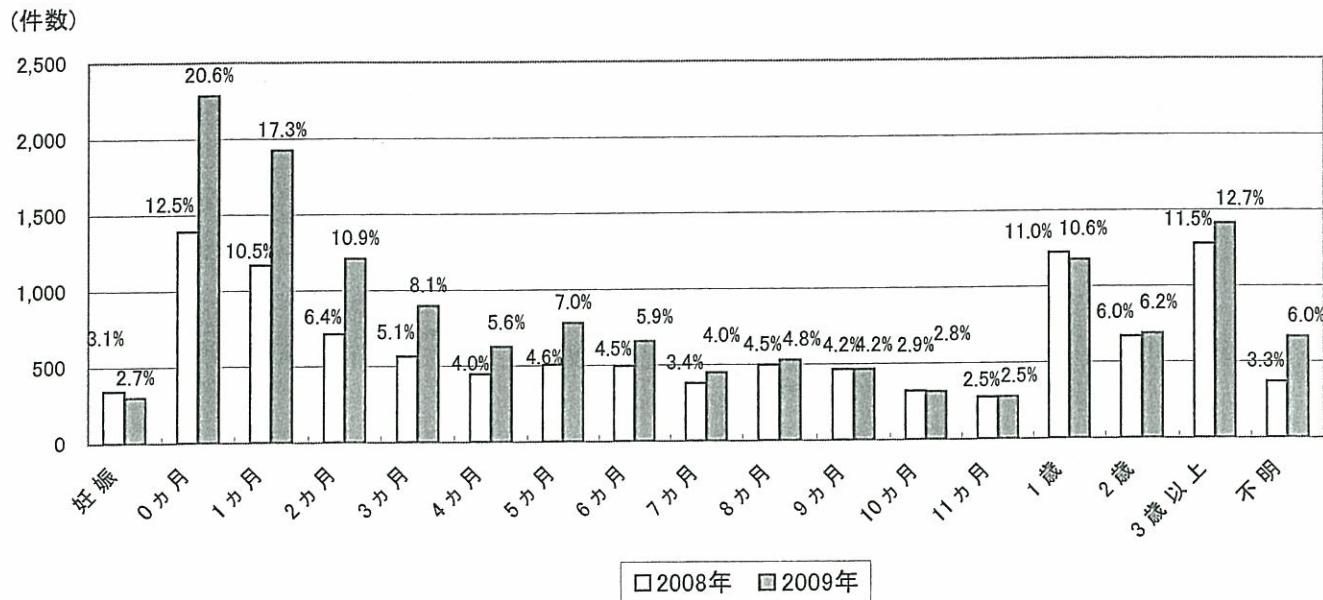
### ③相談者の年代別利用割合の推移(2005～2009年)



\*2006年より、相談者の年代の対象は母親のみ。

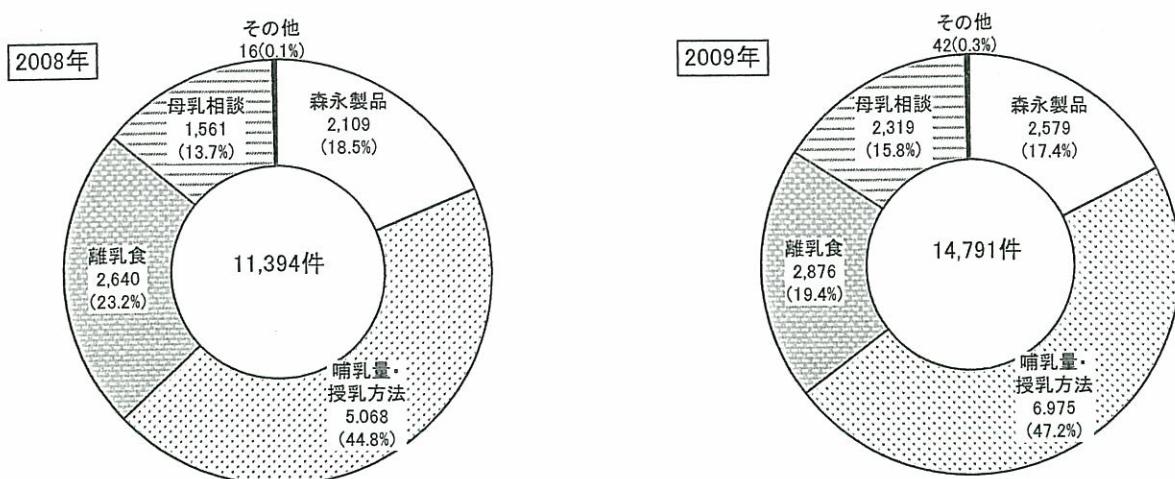
\*35歳以上の層が連続して増加し、2009年23.9%と4分の1弱を占めている。

#### ④2008年・2009年の対象月齢別利用件数



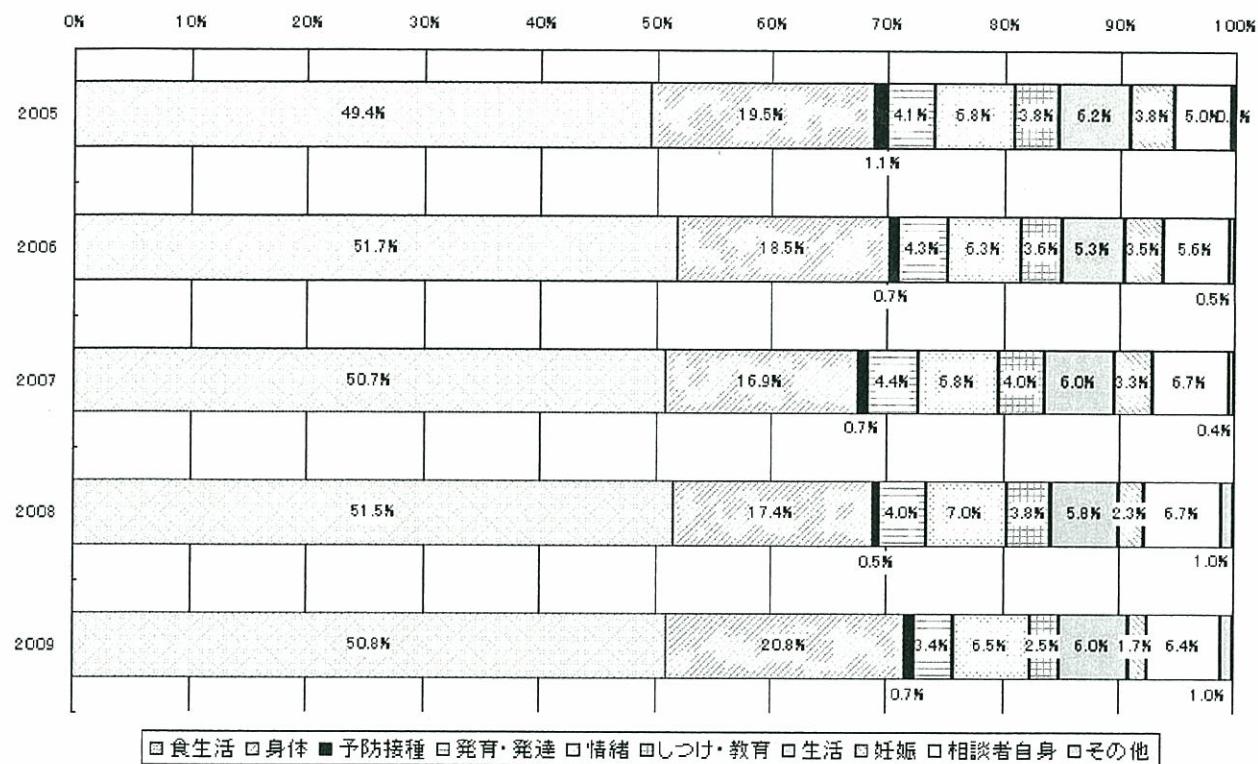
\*エンゼル110番開設の1975年から2008年まで、0ヵ月から3ヵ月までの低月齢の赤ちゃんが33%前後を占めるというのが、33年間変わらない傾向だった。2009年は0ヵ月・1ヵ月児が増え、低月齢の赤ちゃんが全体の43.1%になった。

#### ⑤生活に関する相談内容の割合(2008年と2009年の比較)



\*食生活に関する相談の件数では、全体が前年比129.8%の伸びだったので、「母乳相談」が1.5倍弱と目立って増えている。2007年に「授乳・離乳の支援ガイド」が策定され、母乳推進の影響が大きい。また、「哺乳量・授乳方法」も前年比137.6%と増加した。

## ⑥年間の相談内容割合の推移（2005～2009年）



\*低月齢の赤ちゃんが増加したため「身体」の相談が増加。

## まとめ

相談対象の子どもの月齢では、新生児と1ヵ月が大きく伸びました。エンゼル 110 番が開設以来 33 年間、0~3 カ月までの低月齢の赤ちゃんが 33% 前後を占めていましたが、2009 年は 43.1% まで拡がりました。それに伴い、「便」「皮膚」「耳鼻咽喉」「新生児の生理」など、低月齢の赤ちゃん特有の項目が増加し、相談内容では「身体」の相談が前年の 17.4% からと 20.8% へと伸びています。

最も多い「食生活」に関する相談では、全体に占める割合は減少しましたが、相談件数は 2008 年の 11394 件から 14791 件と前年比 129.8% で増加し、特に「母乳相談」は前年比 148.6% と目立つて増えました。これは、2007 年に「授乳・離乳の支援ガイド」が策定され、母乳推進の影響が大きいと思われます。産科医師が不足し、「お産難民」という言葉が生まれ、4 年近く経っています。その状況にまだ改善が見られないことからもわかるように、母乳育児を支援するマンパワーが不足しているのが現状で、個々のケースへのサポートがなかなか難しいのではないかでしょうか。

1997 年から減少を続けていた受信件数が、2009 年は受信総件数 14642 件(前年比 132.0%) と大きく増加しました。森永乳業「わたしの育児日記」「日記用しおり」にエンゼル 110 番の電話番号を掲載した効果が大きかったようです。新規の利用者では、「わたしの育児日記」「日記用しおり」が認知媒体の 43.6% を占めました。一方、新聞・雑誌といったマスコミは 4.4% と大きく減らし、インターネット 4.5% とほぼ同数となっています。

近年受信件数が減少を続けていた理由として、少子化による利用者層の減少、自治体や NPO 法人など子育て支援窓口の拡大、携帯電話の普及があると考えていました。しかし、開設時と変わらず、初めての子育てで不安を抱える母親は多く、「育児日記」という母親が見やすい媒体があれば、育児相談のニーズはまだ大きいといえるでしょう。